

平成24年度 新農薬実用化試験(効果試験)成績

試験実施機関:(社)福島県植物防疫協会

試験年度	項目	対象作物(品種)	試験薬剤(使用濃度)	対象病害虫名	発生状況	効果判定(薬害)	結果及び考察
24	病害防除	なし(二十世紀)	BAF-1201F(×2,000)	黒斑病	中	A(ー)	なし黒斑病に対して対照薬剤のキノドー水和剤80 1,200倍と比較し、優る防除効果が認められ、無散布区と比較して十分な防除効果が認められた。葉および果実に対する薬害は認められなかった。以上のことから実用性は高いものと判断された。
		なし(幸水)	BAF-1201F(×2,000)	黒星病	多	A(ー)	なし黒星病に対して対照薬剤のベルコート水和剤 1,500倍と比較し、優る防除効果が認められ、無散布区と比較して十分な防除効果が認められた。葉および果実に対する薬害は認められなかった。以上のことから実用性は高いものと判断された。
		もも(川中島白桃)	BAF-1201F(×2,000)	黒星病	中	A(ー)	もも黒星病に対して対照薬剤のベルコート水和剤 2,000倍と比較し、同等の防除効果が認められ、無散布区と比較して十分な防除効果が認められた。葉および果実に対する薬害は認められなかった。以上のことから実用性は高いものと判断された。
		もも(あかつき)	ナリアWDG(×2,000)	炭疽病	少	B(ー)	もも炭疽病に対して対照薬剤のプリントフロアブル25 2,000倍と比較し、同等の防除効果が認められ、無散布区と比較して防除効果が認められた。葉および果実に対する薬害は認められなかった。以上のことから実用性は高いものと判断された。
	虫害防除	りんご(ふじ)	トモノールS(×25)	ハダニ類(リンゴハダニ)	少	B(ー)	本剤25倍液の散布は、対照薬剤の機械油乳剤95 24倍液散布と較べるとやや劣ったが、高い防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。
		かき(蜂屋)	アディオンF(×1,500)	アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)	少	B(ー)	本剤の2,000倍液の散布は、対照薬剤のカルタップSG水溶性1,500倍液の散布と同等かやや優れた防除効果が認められた。少発生下の試験であったが、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。
		かき(蜂屋)	ウララDF(×1,500)	アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)	少	B(ー)	本剤の1,500倍液の散布は、対照薬剤のカルタップSG水溶性1,500倍液の散布とほぼ同等の防除効果が認められた。少発生下の試験であったが、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。
		なし(豊水)	コルト顆粒水和剤(×2,000)	カイガラムシ類(ナシマルカイガラムシ)	中(放虫)	B(ー)	本剤2,000倍液のクローラー定着前の散布は、定着阻害効果が顕著で、対象薬剤のアブロードフロアブル1,000倍液のクローラー定着後の散布より高い防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。
		もも(川中島白桃)	IKI-3106液剤50(×2,000)	モモンクイガ	多(接種)	A(ー)	本剤の2,000倍液の散布は、対照薬剤のダーズバンDF 3,000倍液の散布と較べ、散布14日後の食害防止効果及び食入防止効果が優り、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。
		もも(あかつき他)	コルト顆粒水和剤(×3,000)	カイガラムシ類(クワシロカイガラムシ)	多(接種)	B(ー)	本剤3,000倍液のふ化開始期頃の散布は、定着阻害効果が顕著で、対象薬剤のアブロードフロアブル1,000倍液の発生盛期頃の散布と同等かやや優る防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。
		りんご(ふじ)	ESGAL-1 AL剤(原液)	リンゴハダニ	少	C(ー)	本剤の原液散布は、対照薬剤のアカリタッチ乳剤 2,000倍液の散布と同等かやや優る防除効果が認められた。防除効果はやや低いだが、実用性は高いと考えられる。薬害は認められなかった。
		もも(あかつき)	GL-45(スプレー)(原液)	アブラムシ類(モモコフキアブラムシ)	多(接種)	A(ー)	本剤の原液散布は、対照薬剤のベニカ水溶性2,000倍液の散布と較べると同等かやや優れた防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。なお、薬害は認められなかった。
		もも(あかつき他)	GL-45(スプレー)(原液)	コガネムシ類(マメコガネ)	多(放虫)	A(ー)	本剤の原液散布は、対照薬剤のベニカ水溶性2,000倍液の散布と較べると同等の優れた防除効果が認められ、実用性は高いと考えられる。なお、薬害は認められなかった。